



石油開発事業

OIL EXPLORATION AND PRODUCTION BUSINESS

半世紀にわたる原油開発の実績に加え、
中東産油国との信頼関係を基盤とし、
事業の拡大に取り組みます。

事業概要

石油開発事業は、グループ事業ポートフォリオの中でも収益の柱であり、長年信頼関係を築いてきたアラブ首長国連邦(UAE) アブダビ首長国やカタール国を中心とする中東地域をコアエリアとして、既存権益鉱区での安全・安定操業を進めています。

2019年度実績・2020年度見通しについて

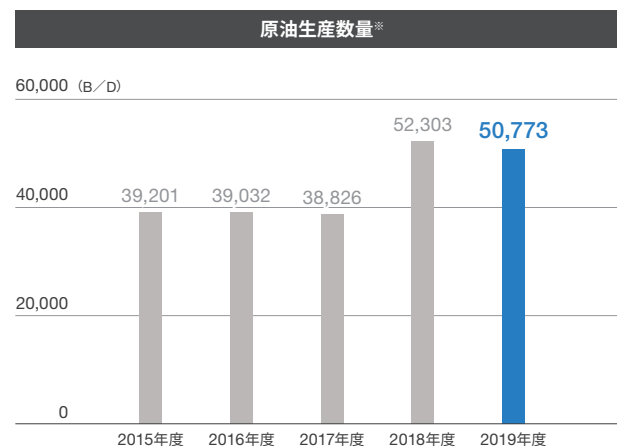
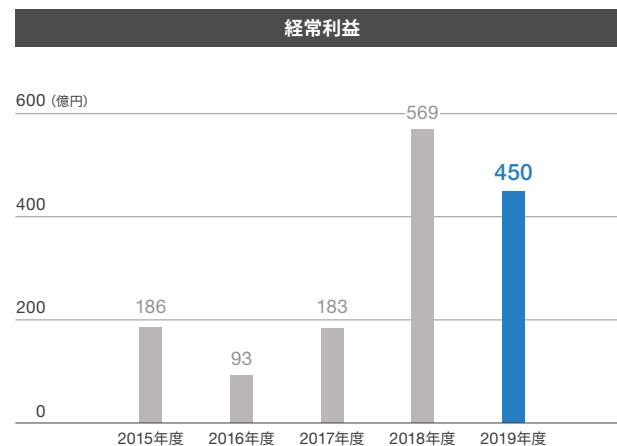
2019年度の既存油田における生産数量は前年から回復しましたが、ヘイル油田の油層圧低下への対応として生産調整を実施したことにより、生産数量[※]は前年比97%の50,773バレル／日となりました。また、原油価格は前年から5ドル／バレル減少の64ドル／バレルとなり、経常利益は450億円(前年比-119億円)となりました。

2020年度は引き続き安全・安定操業を継続するも、新型コロナウイルス感染症を起因とする原油価格下落の影響により、経常利益は-40億円(前年比-490億円)を見込んでおります。ヘイル油田については現在、将来的に最大限の原油を回収するための2次回収を検討しています。

※生産数量は主要開発会社であるアブダビ石油、カタール石油開発、合同石油開発の合計

経常利益

2019年度実績	450億円 (前年比 -119億円)
2020年度見通し	-40億円 (前年比 -490億円)



事業の強みと戦略

リスク	機会	強み
- 原油価格に関するリスク - 脱化石燃料に伴う座礁資産化リスク - 油田における操業・設備の事故リスク	- 世界の石油需要は2040年まで増加 - 産油国の発展に伴う事業機会の拡大	50年にわたるアブダビ首長国との強固な信頼関係 - 自社操業による海上油田生産 - 競争力の高い油田を保有

主なグループ会社

コスモエネルギー開発／
アブダビ石油／カタール石油開発／
合同石油開発(持分法適用会社) 他

主な資産



原油埋蔵量(確認・推定)
160.6百万バレル
約17年分の供給量に相当
(2019年12月末時点)



原油生産量(グループ合計)
約**5.1**万バレル／日
精製能力比 約13%
(2019年1月～12月実績)



パートナーシップ
50年にわたる
産油国との
強固な信頼関係

事業戦略

石油開発事業では、世界的な石油の需要と供給の動向や産油国およびその周辺国における政情不安による原油価格の変動、長期的なトレンドとして脱化石燃料へ移行することによる油田(保有資産)の座礁資産化、操業に伴う油田や生産設備における事故を事業環境におけるリスクとして認識しています。

一方、事業環境における機会としては、長期的には世界的な石油製品需要が2040年まで堅調に漸増すると想定されていること、産油国の発展に伴う事業機会の拡大を想定しています。

当社グループの強みとして、UAE建国以前からの50年以上にわたり、アブダビ首長国と強固な信頼関係を維持しています。また、当社グループは産油国において自社操業を行っており、長年にわたり培った技術力を活かし、安定した海上油田生産を行っています。加えて、当社グループが保有している油田は、浅海に位置していることから相対的に掘削・生産コストを抑えることが可能となり、競争力を有しています。

今後も堅調に伸びていくと想定される石油エネルギー需要に対して、当社グループは競争力のある油田にて、引き続き安定生産を進めていきます。



石油開発事業 OIL EXPLORATION AND PRODUCTION BUSINESS

競争優位性

競争優位性

50年にわたるアブダビ首長国との強固な信頼関係

当社グループのアブダビ石油とアラブ首長国連邦(UAE)アブダビ首長国との関係は、UAEの建国以前の1967年までさかのぼります。

当時のアブダビ首長国は、それまで欧米諸国にのみ開放していた石油利権を日本にも開放し、当時の丸善石油、大協石油(ともに、現コスモエネルギーホールディングス)、日本鉱業(現ENEOSホールディングス)の3社が共同で国際入札に参加し、落札しました。

その後、同年の12月6日にアブダビ沖合の石油鉱区の探鉱・開発に関する利権協定が調印されました。

アブダビ石油は長年にわたり、アブダビ国営石油会社(ADNOC)と協働し、安全で安定的な原油開発を進めており、会社設立以来、高い評価を受けております。2018年にアブダビ石油は創立50周年を迎えました。これからもアブダビ首長国にとって当社グループが友好的かつ信頼されるパー

トナーであり続けるように努力してまいります。



競争優位性

自社操業による海上油田生産

当社グループはオペレーター(※操業を自社で行う会社)として石油開発と生産を行っており、油田操業に関する技術やノウハウ、経験を蓄積しております。原油生産において、自噴による生産では油層内にある原油の20%程度しか回収できず、原油回収率を最大化するためには、油田特性に適合した原油回収法を導入する必要があります。当社グループでは油田の特性に合わせ、坑井内に電動ポンプを設置する方法や油層圧力維持を目的に地層にガスを圧入するガス圧入法、水を圧入する水攻法などの原油回収法を利用して、

原油回収率の最大化および生産の最大化を図っております。

また当社グループはHSE^{※1}活動全般に積極的に取り組んでおります。アブダビ石油では従業員のキャリアに応じたHSE教育および訓練計画の策定と実行、現場HSE管理の向上をめざしたHSEパトロール、緊急時対応訓練の実施など多岐にわたっており、労働安全衛生の改善をはかりつつ環境保護を重視した操業を行っております。

今後も各油田において安全操業安定生産を遂行し、日本への安定供給に寄与してまいります。

※1 HSE (Health/Safety & Environment) : 事業活動に伴う労働安全衛生問題や環境問題を示す言葉であり、これらの問題に系統的かつ効率的に対処してリスクを出来る限り低減し、企業価値を高める取り組みがHSE活動です



競争優位性

競争力の高い油田を保有

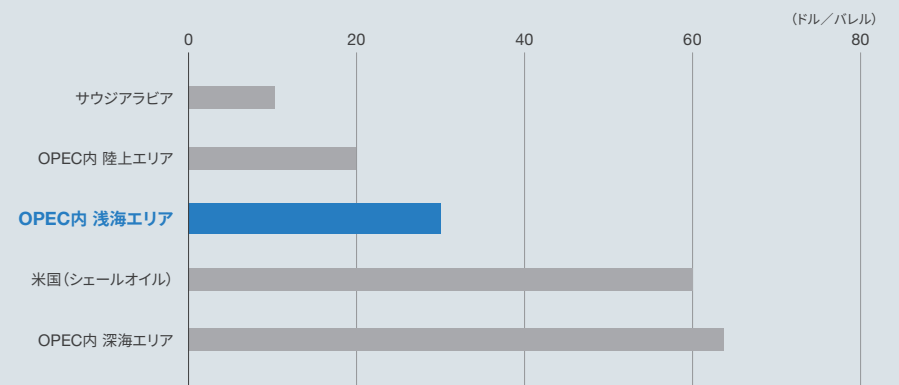
当社グループはアブダビ首長国においてはアブダビ石油、カタール国においてはカタール石油開発、アブダビ首長国とカタール国の国境地帯においては合同石油開発が操業会社となり、石油開発ならびに生産を行っております。当社グループが石油開発・生産を行っているエリアは、浅海に位置する在来型油田であり、大水深油田やシェールオイルに代表される非在来型油田に比べ、開発・生産コストが低く、競争力が優れております。このため当社グループの石油開発部門は、ドバイ原油価格が30ドル/バレル台まで下落した2016年度の厳しい環境においても、経常利益は黒字となっております。

当社グループであるアブダビ石油は

2012年12月に既発見未開発構造となるヘイル油田の権益を取得しました。ヘイル油田は既存油田の近傍に位置していることから、開発において既設地上生産設備を最大限活用することで、新たな設備投資の抑制が可能となりま

した。さらに生産量の増加に伴い単位当たりの操業コストを低減しております。ヘイル油田は2017年11月より生産を開始し、生産量増加に伴って当社グループの収益力は大きく向上しました。

開発エリア別・損益分岐点となる原油価格



※外部調査機関の資料に基づき作成。生産コストは油田毎に異なる

